元気!!上郡 町のどこかで

新鮮・安全で結ぶ 食と農のレポ

上郡町内の各地で、農業の活性化と地域交流を目的に、地元農家が知恵と元気を出し合って、朝市などの直売所の活動を展開しています。新鮮で安心な地元の野菜を私たちの食卓に提供している4つのグループを、今回レポートしました。農作物を通じて交流の輪を広げている元気な皆さんを紹介します。

ふれあいレポート

むかしの朝市

「YS（ワイエス）・24農園グループ」は、上郡町にある「生活研究グループ」（農業普及センターが推奨、指導している全国的な組織）のひとつで、「地産地消」（地域で採れた農作物を地域で消費すること）の精神のもと、駅前児童公園の横で「むかしの朝市」を行っています。

このグループはどのような集まりですか?

グループ名の「YS・24」は「山野里小、昭和24年に卒業」という意味で同窓生の有志がメンバーです。初めは自分たちでおいしいものを食べようという目的からスタートしましたが、素人ながら「安心して食べられる野菜を作ってみよう」ということになり、昨年から農地を借用して農作物の栽培と朝市を始めました。畑の中の販売所なので、お客さんの希望の野菜を、すぐに畑から掘り出して来られるのが魅力ですが、水道がないので水は持参です。

上郡だんじの開発にも携わっておられるとか?

町の新特産品「上郡だんじ（いたどりの漬物）」の開発は「生活研究グループ」の中の「加工研究グループ」が取り組んでいて、私たちも協力しています。いたどりの採取時期は春だけなので、今春にどれだけ素材を集められるかが課題で、今日も、このことをみんなで話し合うつもりです。

活動のモットーは?

遊び心からスタートしているので高い目標は持たずにのんびりやっています。「むかしの朝市」は毎週水・土曜日朝9時から朝11時まで行っていますが、近ごろでは朝7時には野菜を用意しないと間に合わないようになってきました。皆さんに、安心して食べてもらえるようにという思いから、最近は無農薬での野菜づくりなどの勉強も始めているところです。

YS・24農園グループ

代表　小林文哉さん

特産品「上郡だんじ」の開発にも協力しています。

JA朝市グループ

毎週水・土曜日の朝7時半から高田台3丁目の一角で、また日曜日の朝8時からは、くらしの店上郡店の駐車場で、町内の17軒の農家で栽培した四季折々の野菜などを出品している朝市グループです。メンバーは、早朝から軽トラックやワゴン車に新鮮野菜を詰め込んで、町内各地から集合します。

活動の発端は?

農協婦人部がくらしの店前で始めた朝市が発端で、「地元産の新鮮な野菜を住宅地の皆さんに」と高田台でも直売所を開いたのは昭和の末期でした。町内各地の農家がメンバーで、野菜はもとより、椎茸、りんご、桃、メロン、花木、おもち、豆など自家栽培した農作物を、毎週出品しています。

今後の目標は?

朝早くから朝市会場に足を運んでくださるお客さんと「今日はこれが初物やで。」「この野菜は、こうして食べたらおいしいよ。」などと、楽しく会話するふれあいが、私たち生産者の力になっています。また、グループの中での情報交換や交流も農業をする上で大きな励みになっています。

最近は、消費者のニーズが多様になっていますので、品質管理には十分気を配っています。これからも、それぞれの生産者の特徴を出して、何より安心して食べていただけるように、心を込めて野菜作りに努めたいと思います。

代表　木村昌照さん

昭和から平成へ。お客さんと交わす会話が楽しい。

JA朝市グループ

お知らせ　来月号から、新コーナーとして、この「元気!!上郡　町のどこかで」を始めます。ボランティア活動やスポーツ活動、特別な技術などを広く伝えている団体など、町内で積極的に活動している元気な皆さんを紹介していきます。「私たちの活動を知ってほしいな！」という団体は、役場企画管理課（☎52-1112）までご連絡ください。

上郡から播磨科学公園都市へ続く県道端に販売所を設けて、地元、金出地で採れた農作物などを販売している「金出地ふれあい直売所」の皆さんを、年の瀬の12月27日に訪ねました。

当日は「歳末大感謝デー」ということで、葉牡丹や干し柿、黒豆、冬野菜などが並び、来場された方々には、杵つき餅がふるまわれていました。

金出地ふれあい直売所

グループ発足の目的は?

9年前、播磨科学公園都市のまちびらきに合わせて発足しました。金出地の農家で取れた新鮮な自家栽培の野菜を、お客さんとのふれあいを楽しみながら供給していこうと始めました。秋の金出地ふれあいまつりと共に定着してきたようで、近隣の市町からも定期的にお客さんが来られます。

いつ活動されてますか?

金出地の5地区のメンバーを3班に分け、毎週月・水・金曜日の朝7時から朝11時までの時間帯に直売所を開けています。

代表　中井寅雄さん

播磨科学公園都市とのふれあいを目的にスタート。

また、第1と第3日曜日の午前中には、播磨科学公園都市のオプトピアで朝市に出店しています。

一昨年には「生きがいある郷土づくりに貢献する団体」として、県知事から「くすのき賞」をいただいたんですよ。

今後の活動についてひとこと

直売所に立ち寄ってくださる方の色々な要望を、メンバーとのおしゃべりの中で伝え合って、お互いにより良いものを作っていこうとしています。お年寄りにとっては、お客さんとの交流がひとつの生きがいになっていると思います。

それから、ここ金出地の特産品の「水車米」を皆さんに知ってもらい、食べていただくことも大きな課題です。やるべきことはたくさんありますよ。

梨ケ原ふれあい直売所

代表　新　一成さん

都市住民の人々との交流イベントも開催します。

国道2号線を岡山へと向かう途中、右手に「梨ケ原ふれあい直売所」の看板を発見。千軒を越える別荘を抱える播磨自然高原。この別荘地の第一ゲート近くに売店を借り受けて、梨ケ原の集落内で自家栽培した農作物を持ち寄り、販売している団体が「梨ケ原ふれあい直売所」です。

始められたきっかけは?

休日に都市部から別荘やゴルフに来られる方に地元、梨ケ原で採れた農作物を提供しようと、地元有志が、農業普及センターなどの協力を得て、平成11年4月から始めました。高齢者の生きがいづくりと、農村と都会とのふれあいをモットーに毎週土・日曜日と祝日に朝9時から出店しています。

お客さんの反応は?

別荘に来られる方の中には、滞在中の食料を揃えるのに、スーパーで肉だけ買ってきて野菜はここで買う方や、都会にいるお子さんに新鮮な野菜を送りたいという方などがおられて、大変喜ばれています。また、野菜は見ばえより味や新鮮さだと言われます。

イベントもされているとか

春と秋に自治会協力のもと、餅つきや太鼓、民謡披露などをして交流イベントを開きます。5月の連休中は、直売所周辺に使わなくなったこいのぼりを飾り付けて、別荘の方を迎えます。5月4日に春のイベントをしますので、町内の方にもどんどん来て、楽しんでもらいたいです。

取材にご協力いただいた皆さんありがとうございました。
今回紹介した団体についてのお問い合わせは、役場産業振興課　農林振興係（☎52-1116）まで。